


「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書  
(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

|                  |              |
|------------------|--------------|
| 平成 27 年 6 月 30 日 |              |
| 所属部局・職           | 理学研究科・修士課程学生 |
| 氏名               | 日野恭兵         |

|  |
|--|
| <b>1. 派遣国・場所</b> (〇〇国、〇〇地域)  |
| 京都市  |
| <b>2. 研究課題名</b> (〇〇の調査、および〇〇での実験)  |
| ゲノム実習  |
| <b>3. 派遣期間</b> (本邦出発から帰国まで)  |
| 平成 27 年 6 月 1 日 ~ 平成 27 年 6 月 9 日 ( 9 日間)  |
| <b>4. 主な受入機関及び受入研究者</b> (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)  |
| 京都大学動物学教室、井上英治氏  |
| <b>5. 所期の目的の遂行状況及び成果</b> (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)   |
| 写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。<br>別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。   |
| 今回の実習では、先に行われた鹿児島県屋久島にて採取されたニホンザルの糞サンプルの DNA 分析を行った。<br>これとその糞から採取されたヤマモモの種子の破壊率(これも屋久島で得られたデータ)を合わせて性、年齢、などに着目して分析した<br>またその成果を国際セミナー「The 4th International Seminar on Biodiversity and Evolution」にてグループでポスター発表した |
| 今回の実習により DNA 分析の有用性を実感することができ、またその手法を実際に経験できたことは、今後の研究の可能性を大きく広げるものであり、非常に有意義だった。<br>実習を通じてお世話になった講師の方々、グループのメンバーに感謝したい  |
|   |
| <b>6. その他</b> (特記事項など)   |

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書  
(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

|  |
|--|
|  |
|--|